部屋

寒い
ただ寒い

愛の悪寒が
僕を連れてゆく
みじめな幸福と存在意義のない涙へと

子供たちは感じているに違いない
行き止まりの標識ばかりが立ち並ぶ
毎日を

どいつもこいつも知るよしもない
僕にも思い出せなくなった
あの
傲慢なまでに輝く
わななきを

唾棄すべきはこの僕だ
沈んでゆくがいい
再び
あのアスファルトの冷たさへ
あの群集の刃(やいば)の中へ

つまるところ
自ら己を動かしうえうのは
そんなところだけ
あとは「神の見えざる手」に
背中を押しているだけさ

(1997.10.12)